

シンポジウム | 特別講演

歯科衛生士シンポジウム

歯科衛生士が知っておきたい多職種連携のための Up to Date

座長:小原 由紀(東京医科歯科大学大学院口腔健康教育学分野)、須田 牧夫(日本歯科大学口腔リハビリテーション科)

Sat. Jun 23, 2018 2:40 PM - 4:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【小原 由紀先生略歴】

1998年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業

1998～2010年 開業歯科医院勤務

2008年 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科卒業

2010年 首都大学東京大学院修了・修士（健康科学）

2014年 東京医科歯科大学大学院修了・博士（歯学）

2014年～ 東京医科歯科大学講師，東京都健康長寿医療センター非常勤研究員（～現在）

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（老年歯科）

日本歯科衛生士会理事

所属学会：日本老年医学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科医学教育学会，日本歯周病学会，日本口腔衛生学会

【須田 牧夫先生略歴】

1996年3月 日本歯科大学歯学部卒業

1996年4月 日本歯科大学歯学部附属病院臨床研修歯科医師

1997年3月 同 修了

1997年4月 同 高齢者歯科診療科臨床研究生医員

2001年1月 同 総合診療科

2001年10月 同 口腔介護・リハビリテーションセンター併任

2003年4月 同 総合診療科助手

2007年4月 同 総合診療科講師

2011年4月 同 口腔リハビリテーションセンターセンター長

2014年4月 同 口腔リハビリテーション科講師

口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長代理

2015年4月 同 医長

2018年4月 日本歯科大学口腔リハビリテーション科臨床講師

現在に至る

【抄録】

超高齢社会が進む中，高齢者への食支援は今後ますますニーズが増していくと考えられます。歯科衛生士は，口腔衛生管理・口腔機能管理の観点から食支援に関わることになりますが，支援の質を向上させるためには，課題を明確化するため情報と目指すべきゴールを多職種と共有する必要があります。しかしながら，多職種連携は「言うは易く行うは難し」で，現場ではさまざまな課題に直面することになります。

今回，それぞれの職種の知識の基盤や視点をよく知ることが連携を円滑にする第一歩と考え，本シンポジウムを企画しました。草間里織先生の歯科衛生士からの問題提起に続き，看護師の柴崎美紀先生，言語聴覚士の石山寿子先生，管理栄養士の本川佳子先生より，それぞれの視点から食支援の実践のために把握しておくべき知識や連携のあり方について提言をいただきます。皆さんと最新情報へのアップデートと活発なディスカッションをしていきたいと思います。

[S10-1]臨床の現場で取り組む食支援とこれからの課題

―多職種連携につながる役割―

○草間 里織¹ (1. 昭和大学横浜市北部病院歯科・歯科口腔外科)

【略歴】

1993年 鶴見大学女子短期大学部歯科衛生科卒業

1993年 昭和大学歯科病院入職

2011年 産能大学情報マネジメント学部

現代マネジメント学科（医療福祉マネジメント）卒業

2016年 昭和大学横浜市北部病院歯科・歯科口腔外科勤務

日本老年歯科医学会認定歯科衛生士

日本歯科衛生士会摂食・嚥下リハビリテーション分野認定歯科衛生士

日本小児歯科学会認定歯科衛生士

日本老年歯科医学会歯科衛生士関連委員会

日本老年歯科医学会代議員

東京都大田区社会福祉協議会「歯科衛生士ボランティアチーム」代表

さまざまな臨床の現場で取り組まれている高齢者への食支援の中で、チームメンバーとしての歯科衛生士の役割は「口腔から診えることへ支援する」視点であり、包括的なアプローチに積極的に参加していくことが必須となりました。患者を中心とした多職種連携、マネジメントはメンバー間の相互理解、課題の共有なしでは成立しません。

所属する急性期病棟では早期からの食支援を実施し多くの職種と協働しています。しかし実際には口腔衛生管理、口腔機能管理の場面において自分たちだけが実践し多職種へ円滑に発信できていない状況や、口腔関連だけに焦点をおいてしまい、転院、退院に向けての全体像に対して情報共有を見逃している傾向があります。

対象者の背景や ADL、栄養状態等の情報共有方法、把握すべき知識、情報発信の有効なタイミングなどの問題点をどのような方策で解決し、連携につながる役割へと確立していくべきなのかを課題提起したいと思います。